

# AIDS UPDATE

No.84 2008. 7.31

広島大学病院  
エイズ医療対策室  
内線5581(輸血部長室)  
Internet:www.aids-chushi.or.jp

## HIV検査普及週間イベント報告 (6/7とうかささん祭で実施)

### 目次:

HIV検査普及週間 イベント報告	1
8月・9月HIV/AIDS イベント案内	1
看護師研修会報告	2
平成20年度広島県 中核拠点病院連絡 協議会・研修会報告	3
新人看護師 HIV/AIDS研修会報告	4
HIVの危険性のある 人に検査を勧める シリーズ	5

平成20年6月1日～7日は、厚生労働省とエイズ予防財団が主唱するHIV検査普及週間でした。それに合わせて広島では、広島県と広島市、臨床検査技師会が主催で、HIV予防啓発イベントと臨時HIV検査を行いました。

昨年12月のイベントに引き続き、今回も臨時検査は、ユノ川クリニックで行われ、検査対応には温泉川先生とともに、当院の看護職員とエイズ医療対策室のメンバーが担当しました。

とうかささん祭が行われている中でのイベント開催でしたので、多数の受検者があり、終わってみると109名の受検者がありました。また、予防啓発グッズの配布も、3000個用意してありましたが、すべてを配り終わる事が出来ました。



次は、世界エイズデーに合わせて、11月29日にはアリスガーデン、12月6日にはシャレオで、HIV予防啓発イベントを開催予定です。是非、一度足を運んでみてください。

(エイズ医療対策室 鍵浦)

## 2008年8月・9月 HIV/AIDS関連イベントのお知らせ

### 第15回看護師のためのエイズ診療従事者研修

日時：8月6日～7日 8時～

場所：広大病院 外来棟2階会議室

### 第16回看護師のためのエイズ診療従事者研修

日時：9月10日～11日 8時～

場所：広大病院 外来棟2階会議室

こちらの看護師研修会は中四国の拠点病院より多数応募頂き、選考が終了しました。興味のある方は、次回の参加をお待ちしております。

### 平成20年 第1回中四国ブロックエイズ治療 拠点病院等連絡協議会

日時：8月21日 14時40～17時

場所：ホテルセンチュリー21広島

参加者：中四国ブロック拠点病院、  
中四国中核拠点病院、中四国拠点病院、  
広島県臨床心理士会、  
中四国各県、広島市等

内容：中四国ブロックのエイズ対策実施状況についての議事、症例検討会、質疑応答等

この連絡協議会は公開となっております。  
興味のある方は直接会場へお越し下さい。

# 平成20年第1回 HIV/AIDS専門カウンセラー研修会 ご報告

エイズ医療対策室 ソーシャルワーカー 船附 祥子

7月5日・6日の2日間にわたり八丁堀シャンテにて開催されましたカウンセラー研修会に、協力スタッフとして参加をさせていただきましたので、ご報告申し上げます。

この研修会では、中四国地域のエイズ拠点病院職員あるいはエイズ派遣カウンセラーの方が8名参加されました。

プログラム内容は、第1日目にお二人の先生による講義と患者さんの講演、グループワークによるロールプレイの設定作り、第2日目に「服薬指導」についてのロールプレイと、カウンセラーのみの事例検討が行なわれました。

安岡先生の講義については、受付業務等の関係上ほとんどお聞きすることができず、残念でした。



兵庫医科大学病院ソーシャルワーカーの伊賀先生の講義では、検査法の変更による心理的影響や治療ガイドライン変更と身体障害者手帳および後期高齢者医療への関連事項など、最新の状況について大変分かりやすくご解説を頂き、勉強になりました。

当院では、まだ体験していない状況（新しい検査法が導入されておらず、後期高齢者対象の患者さんがいらっしやらない）について、今後の変更に向けての準備ができやすくなり、助かりました。

患者さんのお話では、研修会開始以来おそらく初めてであろう、ご家族によるご講演で、興味深かったです。



HIV感染症になると、恋愛や結婚、出産をあきらめなければならないと考えて、落ち込んでしまう患者さんが多いので、医療関係者からの情報提供がとても重要だと思うのですが、今回の参加者の方々は、患者さんが病気の治療しながらも家族と一緒に普通の生活を送っているのだというイメージを持ちやすくなったのではないかと思います。

妊娠・出産にまつわるお話をもう少し伺いできていれば、というのが心残りです。



第2日目のロールプレイでは、久しぶりに患者さん役をさせていただきました。

「HIV/HCV重複感染の患者さん、インターフェロン治療中にうつ症状により治療中断を検討」という今までのロールプレイには無い役どころで、非常に緊張しましたが、この役をさせていただいたことで、大きな発見が二点ありました。

まず一点目は、現実に「うつ状態」と医者に診断されていない状態であっても、自分を卑下するような考え方や発言などを続けていると、それに近い心理状態に追い込まれることです。

二点目はそのような心理状態にいる際に、誰から肯定的な声掛けがあることが大きな励みになることです。

心理社会的支援においては既に基本的なことで、何を今更という感否めませんが、自分がその状態を体験することで、改めて心理社会的支援スタッフの担う役割の重要性を認識することができました。日常業務のあり方を見直す機会にもなったと思います。

## 平成20年度 広島県エイズ中核拠点病院連絡協議会・研修会 報告

## エイズ医療対策室 医師 齋藤 誠司

平成19年度より、広島県におけるエイズ中核拠点病院が県立広島病院（以下、県病院）と広島市民病院（以下、市民病院）に決定し、広島県内の医療従事者を対象とした連絡協議会を県病院が、医療従事者研修会を市民病院が担当しています。

本年度の連絡協議会及び医療従事者研修会が、6月19日に市民病院において開催され、福山医療センター、呉医療センター、市民病院、県病院から各病院の現状についての御報告をしていただきました。

広島県の健康福祉局保健医療部健康対策課からは平成19年度の県内HIV/AIDSの発生動向の報告があり、HIV感染者数17名、AIDS発病者数4名、計21名と過去最高数でありました。

これは全国の動向と同じく右肩上がりの増加であり、日本のエイズ予防が上手く機能していないことを示す結果と言えます。

広島市からは、予防啓発と検査推進を目的として、平成19年12月1日に世界エイズデーに合わせて行われたイベントでは広島カープの選手のご協力もいただき、来場者7200名、検査受検者数63名と多くの方にご来場いただき、良い結果につながったとの事でありました。

一旦エイズを発病し日和見感染症が重症化してしまえば予後は悪く、未だ多くの方が命を落としています。スクリーニング検査にて早期に発見し、しっかりと治療を行う事の重要性を今後も訴えていく必要があります。

後半の研修会では県病院エイズ支援室が作成したHIV感染症の治療指針の紹介と、広大エイズ医療対策室の看護師の鍵浦さんから「HIV診療における看護の役割について」、おだ内科クリニックの小田健司院長から「クリニックにおけるHIVの診療の経験について」のご講演をいただきました。

HIV診療における専任看護師の役割は大きく、初診時の問診、治療の導入への支援、内服管理への支援、患者の社会生活状況の把握、カウンセリングへのコーディネートなど様々な面から看護、支援を行っていく必要があります。

また当院では看護師研修会を開催し、中四国地方の拠点病院の看護師への教育活動も行っており、今後もその需要は増え続けると思われれます。

小田先生からは開業医の観点から、診療所において行うことができるHIV診療と病診連帯について講演していただきました。

HIV診療において一般診療所では、初診患者の抗体スクリーニング検査の実施と免疫機能の安定化した感染者の経過観察が主に行われています。

診療所において抗ウイルス療法を実施する場合には、その診療所が免疫機能障害における指定自立支援医療機関に指定されていなければ、患者さんが医療費助成制度を利用する事ができず、高額な医療費負担が発生することになります。そのため、現在は診療所での抗ウイルス療法の実施が事実上困難であることが多いです。（小田クリニックは、指定自立支援医療機関だそうです。）

拠点病院、協力病院との連帯を行い、それぞれの役割分担を明確化することが重要であるとの事でした。

HIV感染者の増加に伴い各医療機関での受診者数は増加していく中で、今後も拠点病院、協力病院間の情報交換、知識レベルの向上の場として連絡会議、研修会の必要性は増してくると思われれます。

中四国地方のHIV診療レベルの向上を目指して尽力していきたいと思っておりますので、今後とも皆様方には積極的に会議へ御参加いただきますようお願い致します。



## 新人看護師 HIV/AIDS 看護研修会を終えて

エイズワーキンググループ 看護師 小川 良子

6月4日と13日に、広島大学病院の新人看護師を対象に、HIV/AIDS看護についての研修会がありました。

今回のプログラムは、エイズ医療対策室の鍵浦文子看護師が「エイズ診療ブロック拠点病院とは」「当院のエイズ診療」「針刺し事故時の対応」を30分、患者のSさんが「HIVに感染するまで、感染してからの体験」を30分、私が「HIV感染症への疾患の理解」「セクシャルマイノリティとは」について30分、計90分でした。



2回の研修会に、121名の参加者があり、新人さんだけでなく、その他の看護職の方もいらっしゃっていました。

この研修は、エイズワーキンググループが研修委員会をお願いして、HIV/AIDS看護についてのプログラムも入れていただきました。エイズワーキンググループが新人看護師研修で講義をするのは2年ぶり、しかも90分という長い時間は初めてでした。

私が、この研修を企画する時に、（研修を受けに来る皆さんは、たぶん日勤後強制的に「新人だから研修に行つてね」と上司に言われ、「普段あまりHIVにかかわることがないから面倒だな～」って思いながら出席して下さるのではないかと、きっと私も普段直接自分とほとんどかわりの無い看護の研修を受けなければならないとしたら、「かなりきつい」と思いうはず）と、考えました。

しかも、新人にとって6月と言えば、まだ自分の所属する部署で覚えなければならないことが沢山あって精一杯な時なので、そのような中でも来て下さった皆さんに少しでも興味を持ってもらえるようにと考え、今回は患者のSさんに登場してもらおうことにしました。

また、ワーキンググループとして、看護職員にHIV感染症を持つ患者へのケアをサポートしたいと思

い、ワーキンググループのメンバーについて周知することも必要だと考えました。

そこで、この研修に対して、私は個人的に以下の2つの目標を立てました。

研修生に興味を持って講義を聴いてもらい、眠っている人がいない。

HIV 関係で何か困ったことがあった時、どこに連絡をしたら良いかを知ってもらう。

結果としては...

については、

患者の体験談の中で、感染のことやゲイのことドラッグやセックスの話を、初めて聞いた方は、かなり驚かれたと思いますが、看護師が話をするより直接患者から話を聞くことで、興味を持って聞いていただけたと思います。

眠っていた人の人数をカウントしていたわけでは無いですが121名の中たぶん5～6人くらいしかいなかったと思います。

については、

研修会終了後に私のところに、1件「研修会で聞いたのですが・・・」という問い合わせがありました。普段仕事の中でわからないことは、上司や同僚に聞くこともが最も多いと思いますが、違う部署で働いている人の話を聞くのも結構面白いと思います。いつもと違う連携が取れたり、違う視点で話ができたりお互いに刺激があります。

みなさんも、新しい人脈づくりも兼ねて、HIV感染症について分からないことがあったら、エイズワーキンググループのメンバーに、気軽に声をかけてください。

今回、研修終了後のアンケートでは、この研修会で「満たされた」とか「活かすことができる」という結果が多数ありました。その反面、少数ですが「あまり活かせない」と言うものもありました。

エイズワーキンググループとしては、今後も皆さんにわかりやすく、興味を持てる研修を行っていきたいと思います。10月には当院の看護職員を対象にした公開学習会を予定しています。みなさん、参加をお願いします。そして、これから色々御意見を下さい。よろしくをお願いします。

## HIV感染の危険性がある人に 検査を勧めること シリーズ

### 急性期とエイズ期以外は症状はない

HIV感染症の急性期には多くの方が、発熱、皮疹、咽頭炎、リンパ節腫大、神経症状など伝染性単核球症と同じ症状を起こします(下の表)。この時点で医療機関を受診することがありますが、数日から3週間以内に改善しますので見落とされているのがほとんどです。次にこの患者さんが何か症状を訴えて受診するのは数年から10年先のエイズ発病の時です。

### 急性HIV感染症

症状	頻度(%)
発熱	96
リンパ節腫大	74
咽頭炎 <sup>#</sup>	70
発疹	70
筋肉・関節痛	54
下痢	32
頭痛	32
悪心・嘔吐	27
肝脾腫	14
口腔カンジダ	12
神経症状*	12

<sup>#</sup>発疹=①紅斑性丘疹@顔面、腕幹、手掌、足底など、②皮膚粘膜潰瘍@口腔、食道、生殖器

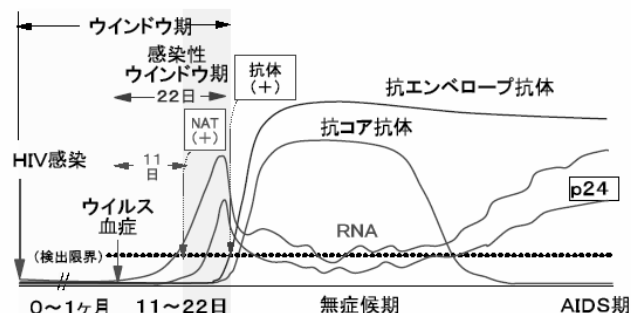
\*神経症状=無菌性髄膜炎、末梢神経障害、神経根障害、顔面神経麻痺、ギラン・バレー症候群、上腕神経炎、認知障害

次の図は神奈川県衛研の今井先生の図を拝借したものです。HIV感染の診断は通常、抗体検査をしています。検査で見つからない時期をウィンドウ期間と言います。

HIV抗体のウィンドウ期間は平均3週間です。つまり急性症状があっても3週間たっているなら、HIV(抗原)抗体検査とHIV RNA検査をします。

仮にこの時点で陰性でも、確実に抗体検査が陽性になる3ヶ月後に再検査を勧めます。

【図】 HIV感染とウイルスマーカー



HIV感染症の治療は私たち自身も驚いているほど進歩しました。最近のデンマークの調査では、25才のHIV感染者の平均期待余命は32.5年にまで延長していました。対象の非感染者では51.1年ですから、まだ短いのですが、それでも以前に考えられていたよりは生命予後が改善したことがわかります。

そうは言っても、検査の結果HIV感染が明らかになると、本人にとって衝撃が大きく、その後の人生設計に大きな影響を及ぼします。家族関係や社会的な背景もありますから、本人の了解なく他人に結果の告知はしません。

かつて、広島市医師会の研修を受けられた複数のドクターがHIV感染者を見つけてくださいました。来院した患者の様子や問診をきっかけに「エイズの検査を受けてみませんか」と勧め、ご本人が「受けてみたい」と決意するのを助けてくださること、これが優れたプライマリケア医の醍醐味ではないかと思います。

(輸血部長・エイズ医療対策室長 高田 昇)

### <ご意見募集>

ご意見やご希望がありましたら、エイズ医療対策室(5351/5581)までお寄せください。

[HAMAMOTO]